

令和4年度人口推計結果の概要について

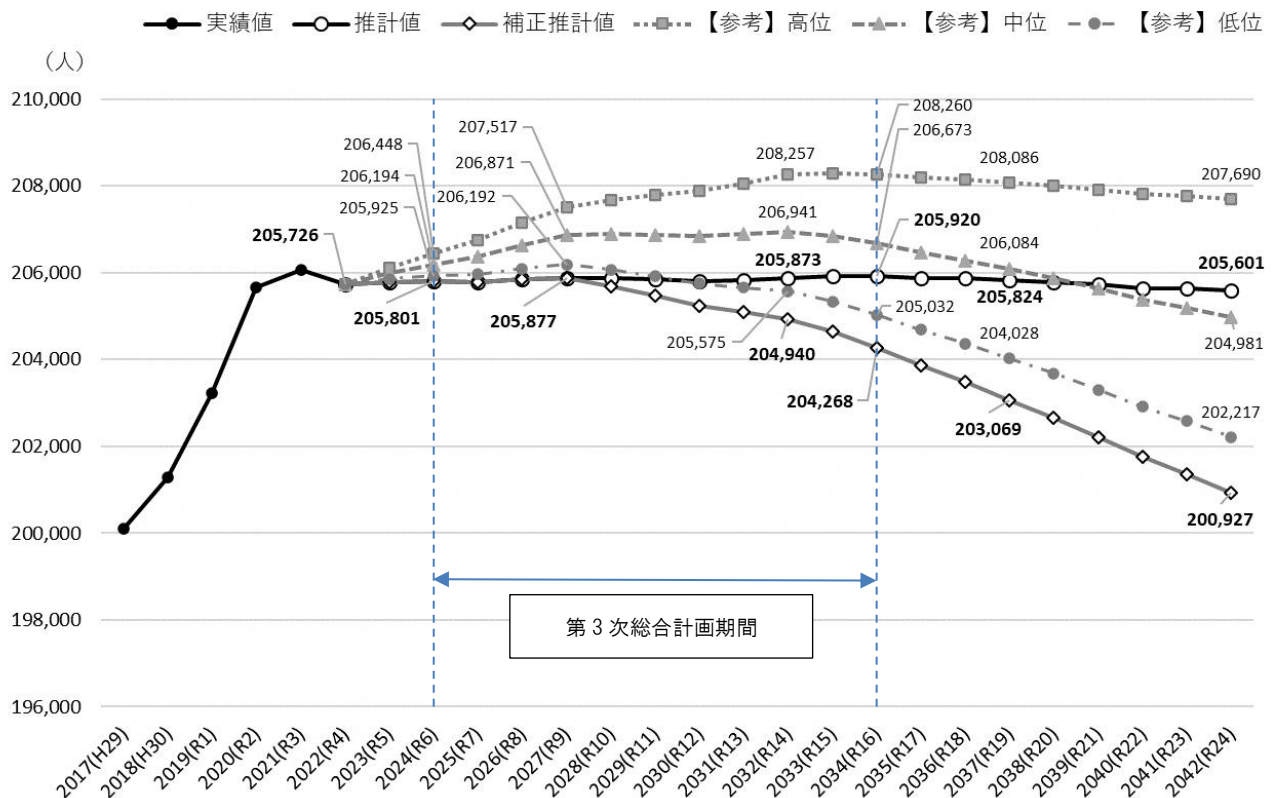
1. 推計概要

- 西東京市第3次総合計画の策定にあたり、人口の動向を推測し、施策や事業の方向性、行政サービスの需要量などを検討するための基礎資料とすることを目的として、令和4（2022）年～令和24（2042）年の20年間の人口を推計
- 推計に当たっては、住民基本台帳データに基づき、修正コーホート要因法による推計を基本として実施
- 推計の基準年は、住民基本台帳の令和4（2022）年4月1日時点とする
- 今回の推計における純移動率の算出基準となる直近5年間の社会増が、前回推計の算出基準となる5年間と比較して倍以上の数値となっており、人口増減の算定に大きく影響が出ることから、純移動率の補正を行う
- 大規模住宅開発については、令和4年以降の予定がないため、転入者見込みの加算は行わない

2. 補正推計結果

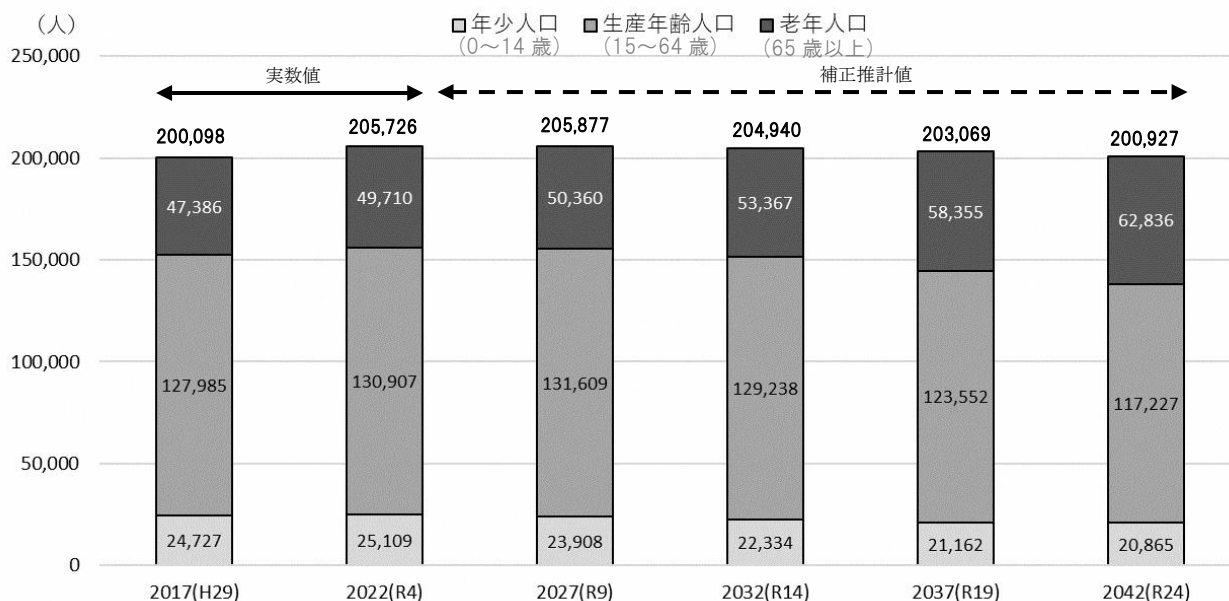
<総人口>

- 令和4（2022）年4月1日の総人口（実績）は、205,726人であり、令和9（2027）年に205,877人まで増加し続けるが、その後は緩やかに減少すると推計される。20年後の令和24（2042）年には、200,927人（対令和4年比で2.3%減、▲4,799人）になると見込まれる。
※今回の人口推計では、補正推計値を採用する
※参考値は、過去5年間における大規模住宅開発に応じて高位（50%）、中位（30%）、低位（10%）程度の開発が続くと想定した場合の推計値



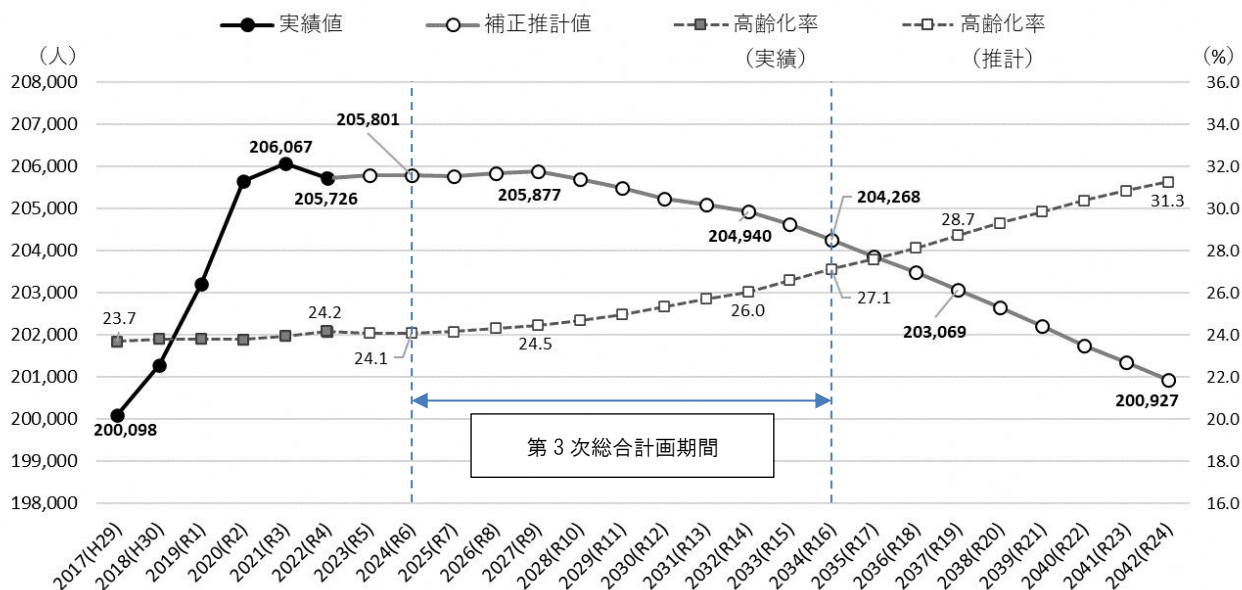
<年齢3区分別人口>

- 年少人口は、令和 24（2042）年には 20,865 人と、令和 4（2022）年の 25,109 人と比べ 16.9% 減少すると見込まれる。
- 生産年齢人口は、推計期間中の令和 8（2026）年に 131,612 人まで増加するものの、その後は減少傾向となる。令和 24（2042）年には 117,227 人と、令和 4（2022）年の 130,907 人と比べ 10.5%減少すると見込まれる。
- 老年人口は、推計期間中の令和 6（2024）年以降は一貫して増加し続け、令和 24（2042）年には 62,836 人と、令和 4（2022）年の 49,710 人と比べ 26.4%増加すると見込まれる。



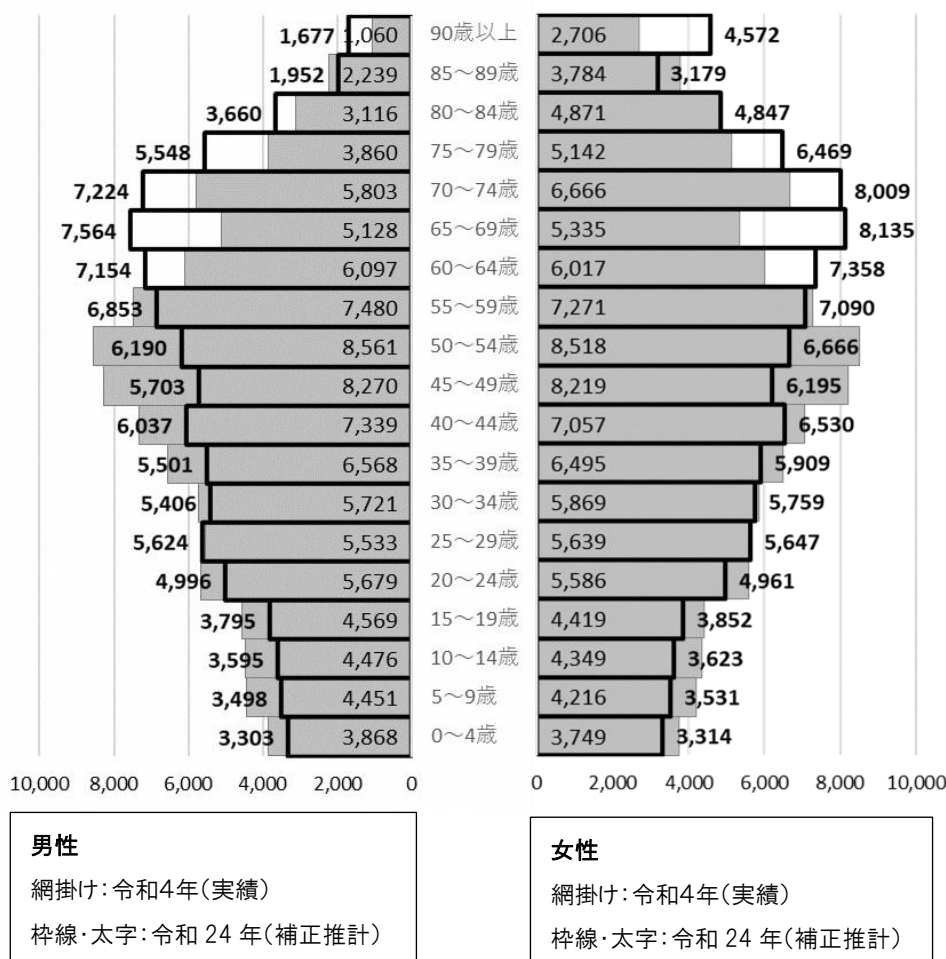
<高齢化率>

- 令和 9 年以降、市全体の人口が減少する中、老年人口は一貫して増加し、高齢化率（総人口に対する老年人口の割合）は、令和 4（2022）年の 24.2%から、令和 14（2032）年に 26.0%、令和 24（2042）年には 31.3%になると見込まれる



< 5歳階級別人口ピラミッド >

- 最も多い階級（ボリュームゾーン）は、男女とも令和4（2022）年の45～54歳から、令和24（2042）年には65～74歳になると見込まれる。
- 男女とも、59歳以下の階級では、25～29歳を除いて減少する一方、60歳以上の階級では、85～89歳を除いて増加することが見込まれる。



3. 前回調査（平成29年度）との比較

- 令和4（2022）年時点の人口について、平成29年度推計結果と、令和4年4月1日の実績を比較すると、総人口は、実績が推計を大きく上回っている。

